



じんさいにつ き じゅうようび じゅうひん いとうじんさい じひつ
仁斎日記 (重要美術品) 伊藤仁斎自筆

2冊 天和2 - 3年 (1682 - 3) 写

縦14cm 横34.5cm

伊藤仁斎（一六二七—一七〇五）は江戸前期に京都で活躍した漢学者。商人の子として生まれ、家業を弟に譲ってから学問に専念した。はじめ朱子学に傾倒し、のちそれを批判して孔子、孟子の原義を明らかにする古義学という独自の学説を樹立した。寛文二年（一六六二）には京都堀川に学塾「古義堂」を開設して、多くの門弟を教育した。

仁斎日記は天和二年（一六八二）七月朔日（ついで）から同三年六月二十九日までと、天和三年七月朔日から十二月晦日まで二冊が現存する。共に仁斎自ら筆録したもの。横折の用

紙をこよりで綴じた簡素な横長帳で、商家文書の帳簿などによく見られる形式である。

仁斎は当時、五十六、七歳。『論語古義』をはじめとする主著の多くが成立する時期であり、また、漢文を読下し文にし、再び原文に戻す学習法を用いた訳文会（やくぶんかい）が開始されるなど、充実した時期にあたる。

日記の内容は、京都の町人としての生活に関わるものと、古義堂を中心とした学問的な記述である。毎日のように医者などの知友や有力門人の来訪があり、来簡がある。古義堂での『孟子』、『中庸』の講義のほか、公卿宅などへ講義



〔仁斎肖像〕

に出かけていることが知られる。

本記は伊藤仁斎が古義堂の当主として自ら記した記録である点で、また、元禄直前の古義堂に関わる人々の記録として貴重である。

（天理図書館 山根陸宏）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
 1月7日より開館、26・31日は閉館。
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）